

1期生「内面が成長した」



事業の運営について話し合う推進委員会のメンバー

国際教養大生をつくる「県高校学習推進委員会」の支援・渡航した1期生が、約10カ月間の海外生活を終え帰国した。7月上旬、秋田市雄和の同大生で開かれた報告会では、高校生が充実した留学生活を振り返った。教養大生は1期目の成果を生かし、事業を磨き上げていく。現在3期生を募集中で、今月中旬に説明会を開く。

高校生の長期留学

1期生は昨年夏に出発し、今年7月上旬までに帰国した。報告会では現地の学校や課外活動で学んだことを発表し、「間違いない言葉なのは、（自分の）内面が成長したということ」。

平野聖さん（秋田南高3年）は胸を張って語った。留学先の本で日本語教師の講師を務めた経験や、日本にない文化を持つ約20人に平仮名や片仮名、漢字を教えたという。授業の内容を全て見て考えて着いたことで、達成感や自信を得たという。

教養大生 推進委活動に手応え

平野聖さん（秋田南高3年）は胸を張って語った。留学先の本で日本語教師の講師を務めた経験や、日本にない文化を持つ約20人に平仮名や片仮名、漢字を教えたという。授業の内容を全て見て考えて着いたことで、達成感や自信を得たという。

花理さん（秋田高3年）は、現地の人と接して自身の考え方が変わったことを紹介。同大生が寛々と自分の意見を話す姿を見て、次第に自分も意見を表現できるようになった。幼児教育にも関心を持ち始めたという。「日本の子どもたちが、幼い頃から英語を学ぶことで、将来国際的に活躍できるよう手助けをしたい」と意欲を語った。

齋藤千鶴さん（秋田南高3年）はフランスに留学。大学では資料が無料の授業など、社会で教育や子育てを支える仕組みを学んだ。

滞在先のホストファミリーがさまざまな事で親と一緒に暮らさない子どもを預かっており、子育ての様子を身近で見られたことも参考になったという。将来は起業したいという。『留学の経験が秋田の力になる』と主張している。1と2期生が力になった。推進委代表の佐藤さん（教養大2年）は「3人の



帰国した1期生の左から佐藤さん、平野さん、齋藤さん



1期生が留学先での学びやこれからの目標を発表した報告会

る状況。引き続き協力関係ひかれていく。小野澤さんは多くの人が知ってもらえるよう交流サイト（SNS）などを通じ、活動の意義を積極的にアピールしていくと話す。

小島さんは「異文化に触れ物事をさまざまな角度から考えることで、広い視野を身に付けてほしい」、小野澤さんは「『主役だか』、秋田にいらぬと誇れるようなことを描き書きつづけていってもらいたい」と期待を込めた。

（清水美枝、水田夏）

留学生は英語力試験と書類選考、面接を経て数人選ばれた。3期生は9月4日までは県内の高校1、2年生を対象に、英語学力試験の申し込みを専用フォームで受け付けている。

今月19日にはオンラインの説明会を開く。参加申し込みは19日まで受け付けている。

2期生入会は今月までに出発。推進委は留学中の情報発信にも力を入れ予定だ。前代表の小野澤さん（同）は「留学に興味のある高校生に知ってもらうため、具体的なイメージを持ってもらう工夫していきたい」と話す。

事業継続のためには資金となる寄付金の確保が重要だ。2期生のために集まった金額は7月末時点で、目標の300万円の半数に不足している。